

平成16年度（第48回）  
岩手県教育研究発表会資料

特別支援教育

**知的障害養護学校高等部の生活単元学習における  
自ら考える進路学習の在り方に関する研究**  
—情報機器や補助教材を活用した  
進路情報の収集と選択・整理の学習活動をとおして—

研究協力校  
岩手県立前沢養護学校

平成17年2月9日  
長期研修生  
所属校 岩手県立前沢養護学校  
氏名 中 條 広 一

## 〈目 次〉

I	研究の目的	1
II	研究仮説	1
III	研究の内容と方法	1
1	研究の内容	1
2	研究の方法	2
3	研究の対象	2
IV	研究結果の分析と考察	2
1	知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想	2
(1)	知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の基本的な考え方	2
(2)	情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習を行うことの意義	2
(3)	情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習の展開	3
(4)	知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想図	4
2	基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析と考察	4
(1)	実態調査の目的	4
(2)	調査結果の分析と考察	4
(3)	実態調査のまとめ	6
3	基本構想に基づく手だての試案の作成と教材の開発	7
(1)	手だての試案	7
(2)	情報機器の内容と活用のねらい	7
(3)	補助教材の内容と活用のねらい	7
(4)	検証計画	9
4	授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1)	情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習の授業実践の概要	9
(2)	手だての試案に基づく授業実践	9
(3)	実践結果の分析と考察	14
5	知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する研究のまとめ	19
V	研究のまとめと今後の課題	19
1	研究のまとめ	19
2	今後の課題	20

おわりに

【参考文献】

補助資料

## I 研究の目的

近年、ノーマライゼーションの浸透により、障害者一人一人のニーズに応じた支援の創出と障害者本人による自己選択・自己決定が重要視されている。こうした動向を踏まえ、知的障害養護学校の進路指導では、生徒が自己を理解し、自ら進路選択や進路決定に参加していく能力・態度を育成するための指導や援助が必要とされている。本校の高等部では、生徒の進路希望を基に、事業所・施設等の見学や現場実習による実際的な学習と卒業生を交えた進路講話、さらに、生徒や保護者との面談を実施し、生徒一人一人のニーズに応じた進路決定を目指してきた。

しかし、生徒の実態を見ると、働くために必要なことは何かを理解して学習に取り組むようになってきたものの、将来の生活設計を踏まえて自分の進路を考えることは難しい様子が見られる。このことは、進路に関する学習が実習にかかわる内容になりがちで、卒業後の社会生活を見通すことについて指導が及んでいないことによるものと考えられる。また、本人の進路希望を基にして進路情報を収集したり整理したりするための学習が効果的に行われていないために、教師が設定した実習や見学等の情報による進路選択に偏ってしまいがちになっているためと考えられる。

このような状況を改善するためには、生徒が自らの進路希望を基に進路情報の収集と選択・整理を行う学習活動が必要である。そのためには、生徒が興味・関心をもって学習活動に取り組むことができる情報機器や補助教材を活用することにより、生徒が自分の将来の生活を想定して考えることができるようにする必要がある。

そこで本研究では、知的障害養護学校高等部の生活単元学習において、情報機器や補助教材を活用した進路情報の収集と選択・整理の学習活動をとおして、生徒が自ら考える進路学習の在り方を明らかにし、知的障害養護学校高等部における進路指導の充実に役立てようとするものである。

## II 研究仮説

知的障害養護学校高等部の生活単元学習の中の進路学習において、次のような手だてを講じることにより、生徒が自ら将来の生活を想定して進路を考えることができるであろう。

- ・情報の検索と処理を円滑に行うことができる情報機器を活用して、生徒の希望を基に職種に関する理解を深めるための進路情報の収集を支援する。
- ・学習活動を記録して振り返ることができる補助教材を作成・活用して、生徒の希望をより明確なものにするための進路情報の選択・整理を支援する。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

- (1) 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想の立案

知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方についての基本的な考え方をまとめるとともに、情報機器や補助教材を活用することの意義を明らかにし、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想を立案する。

- (2) 基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析と考察

基本構想に基づいて、調査対象となる生徒の職種に関する理解、進路希望及び情報機器の利用について実態調査を行い、その調査結果の分析と考察から、手だての試案作成及び教材の開発に必要な資料を得る。

- (3) 基本構想に基づく手だての試案作成と教材の開発

基本構想に基づいて、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方についての手だての試案を作成するとともに、学習活動の記録と振り返りを支援する補助教材の開発を行う。

- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察  
手だての試案に基づいて授業実践を行うとともに、実践結果の分析と考察を行う。
- (5) 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する研究のまとめ  
授業実践の結果から、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方についてまとめる。

## 2 研究の方法

- (1) 文献法  
先行研究資料や文献等を基に、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想を立案する。
- (2) 調査法  
自ら考える進路学習の手だての試案の作成に必要な資料を得るために実態調査を行うとともに、授業実践をとおして生徒の学習活動の様子を観察し、分析と考察を行う。
- (3) 教材開発  
先行研究及び実態調査結果を基に、学習活動の記録と振り返りを支援する補助教材の開発を行う。
- (4) 授業実践  
手だての試案に基づいて、生活単元学習において、自ら考える進路学習の授業実践を行う。

## 3 研究の対象

岩手県立前沢養護学校高等部第2学年Aグループ（男子7名 女子5名 計12名）

## IV 研究結果の分析と考察

### 1 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想

- (1) 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の基本的な考え方  
ノーマライゼーションの理念に基づいた障害者の社会参加の実現を目指す取組が広がり、「支援費制度」の導入をはじめとして障害者本人のニーズに合った新たな支援を創出することと障害者本人による「自己選択・自己決定」の考えを尊重することが求められるようになった。  
このような動向を踏まえて、知的障害養護学校高等部においては、生徒が自ら進路の選択・決定に参加していく能力や態度の育成を目指し、主体的な進路選択を促すための学習を展開することが求められている。そこで、自立的な生活に必要な事柄を実際的に学習することができる生活単元学習において、就労を目指す高等部の生徒に生活上の課題である進路に関する学習を行い、自ら将来の生活を想定して進路を考えることができるようにすることが必要であると考える。
- (2) 情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習を行うことの意義  
ア 進路情報の収集と選択・整理を行うことの意義  
生徒の実態を見ると、漠然とした願いはもっているものの、自己の進路について具体的な将来像をもつことややりたい仕事を言い表すことが困難である。このことは、これまでの進路学習において進路情報に関する内容が盛り込まれなかったために、生徒は卒業後の具体的な生活についてのイメージをもつことが難しく、その結果、進路の選択・決定に参加する意識を高めることができなかつたことによるものと考えられる。  
そこで、進路情報の収集と選択・整理を行うことの意義は、次の二点であると考えられる。一点目は、進路情報の収集に関する内容をとおして、生徒が自己の希望を基に進路情報を集めてその内容について調べることであり、そのことにより、職種に関する理解を深めて進路選択に必要な情報を探すことができるようにし、情報を活用する能力を育成する必要があると考える。

二点目は、進路学習において進路情報の選択・整理に関する内容をとおして、生徒が進路希望の手がかりに沿って進路情報を選択し、希望の実現に向けた取組について考えることである。そのことにより、自己の希望をより明確なものにしようとする意欲を喚起し、進路の選択・決定に参加しようとする態度を育成する必要があると考える。

以上のことから、自ら考える進路学習において育成する能力・態度は、「情報を活用する能力」と「進路の選択・決定に参加しようとする態度」の二つの要素で構成されると考える。各要素の内容については、【表1】に示すとおりである。

さらに、進路情報の収集における「情報を活用する能力」の育成を踏まえ、進路情報の選択・整理において「進路の選択・決定に参加しようとする態度」を段階的に指導することにより、自ら将来の生活を想定して進路を考えることに迫ることができると思える。

### イ 自ら考える進路学習に情報機器や補助教材を活用することの意義

本研究で対象とする生徒は知的障害があり、その障害の特性から、抽象的な概念や言語による情報の理解と学習内容の記憶に困難な状況が見られる。

そこで、情報機器や補助教材の活用は、画像を取り入れた情報によりことばのイメージ化を図りやすくして情報の理解を補うことと、学習内容の記録と保管により学習活動の振り返りを図りやすくして学習内容の記憶を補う上で意義があり、職種に関する理解を深め自己の希望をより明確なものにするための支援として有効であると思われる。

以上のことを踏まえ、本研究における活用する情報機器や補助教材として【表2】の四つの手だてを考えた。

### (3) 情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習の展開

本研究では、生活単元学習において進路学習を題材として取り上げる。この題材は、卒業後就労を目指す高等部の生徒にとって、実際の生活における生徒の課題に応じた題材の一つとなっている。この学習活動をとおして、進路情報を活用する能力の育成と進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成を目指すものである。

題材の展開に当たっては、「進路情報の収集」と「進路情報の選択・整理」の二つの学習段階を設定する。具体的には、【表3】のとおり情報機器や補助教材を活用した学習活動の展開を構想し、指導を行うこととする。

【表3】情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習の展開

段階	手だての活用	具体的な学習活動の展開	構成要素
進路情報の収集	インターネットによる進路情報の収集	進路情報の収集方法を知り、進路情報を集める	情報を活用する能力
	文書ソフトによる進路情報のまとめ	職種の名称、仕事内容、就労のための条件等を調べる	
進路情報の選択・整理	記録紙による進路希望の手がかりの確認	自己の長所や適性を基に進路情報を選択する	進路の選択・決定に参加しようとする態度
	ファイルによる進路希望の実現に向けた取組	進路希望の実現に向けた取組を考える	

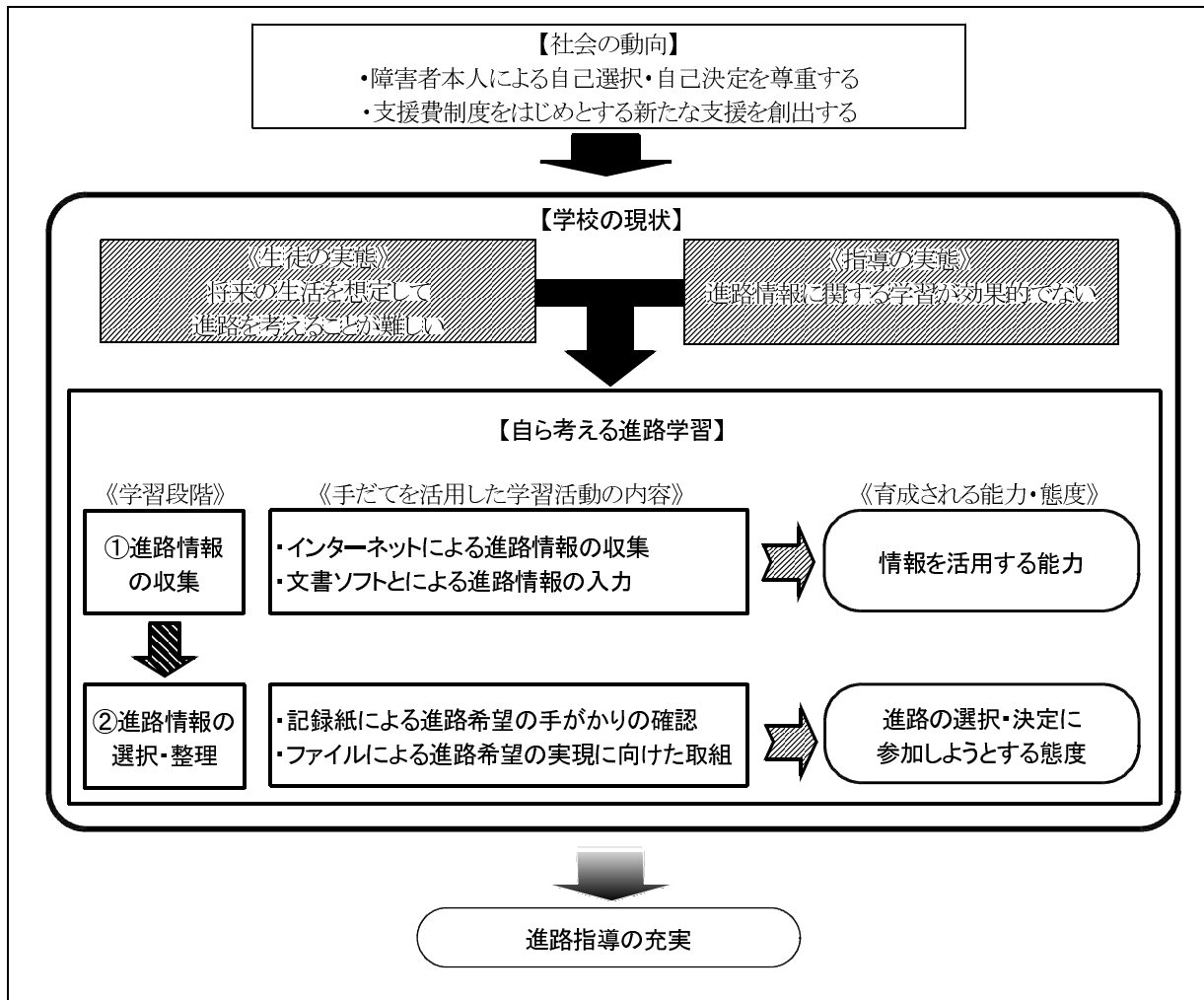
【表1】自ら考える進路学習において育成する能力・態度の構成要素の内容

構成要素	構成要素の内容
情報を活用する能力	職種に関する理解を深め進路選択に必要な情報を探す力
進路の選択・決定に参加しようとする態度	自己の希望をより明確なものにしようとする意欲

【表2】四つの手だて

手だて	活用のねらい
インターネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速で幅広い情報の入手により身近な地域の生活と関連付けた検索を促すこと</li> <li>画像を取り入れた情報により内容の理解を促すこと</li> <li>正しい操作方法の指導により情報の取り扱いに関するきまりやマナーの理解を促すこと</li> </ul>
文書ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの文字入力により情報の整理を速やかに行うこと</li> <li>保存、印刷の操作を行うことにより学習への動機付けを図り、情報の蓄積を容易にすること</li> </ul>
記録紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の記録により調べたことや考えたことをまとめ、学習の成果を確認すること</li> </ul>
ファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を時系列にまとめることより学習の振り返りと新たな課題への気付きを促すこと</li> </ul>

- (4) 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想図  
 これまで述べてきたことを基に、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想図を【図1】に示す。



【図1】 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想図

## 2 基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析と考察

### (1) 実態調査の目的

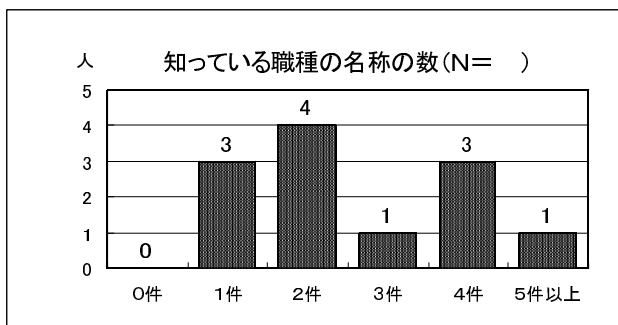
研究協力校の生徒を対象に、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習に必要な資料を得ることを目的として、次の観点に基づいて調査を行った。

- ア 職種に関する理解の把握
- イ 進路希望の把握
- ウ コンピュータとインターネットの利用の把握

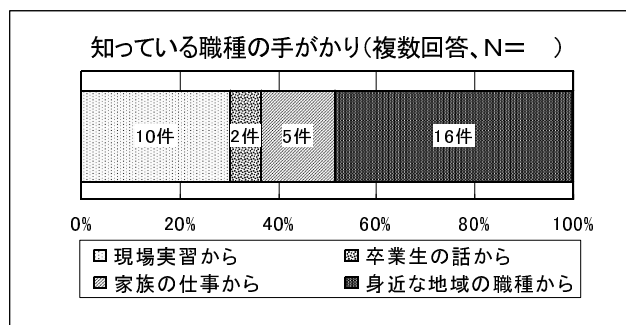
### (2) 調査結果の分析と考察

#### ア 職種に関する理解について

次頁【図2】では、知っている職種の名称を2件記述した生徒が最も多く、一人当たりの平均は3件に満たなかった。次頁【図3】では、職種を理解するための手がかりとなるものが、「現場実習」「卒業生の話」「家族の仕事」を合わせると全体の過半数を占めていることが分かった。このことから、これまでの進路学習が主に現場実習に関する内容であったために、生徒は体験的な学習からの限られた進路情報を基に回答したものと考えられる。そこで、様々な職種があることに気付き、幅広く進路情報を検索することができるようにする必要があると考える。

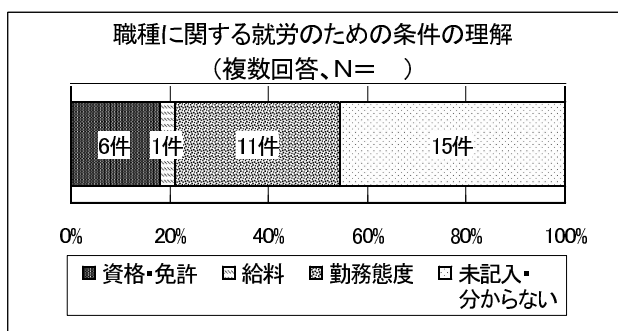


【図2】知っている職種の名称の数



【図3】知っている職種の手がかり

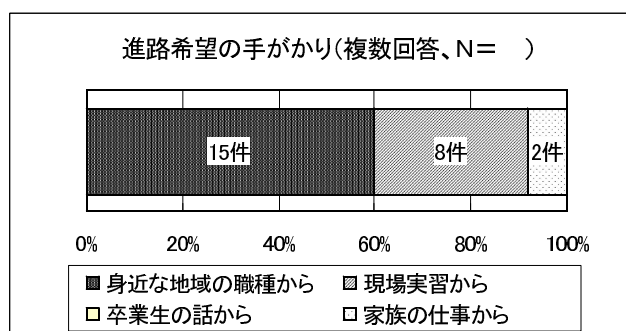
【図4】では、職種に関する就労のための条件について「未記入・分からない」の回答が最も多く、次いで「勤務態度」であった。このことから、これまでの進路学習において勤務態度に関する内容は効果があったが、資格や賃金等の就労に関する内容が少なかったと考えられる。そこで、進路情報の内容について調べ、職種に関する理解を深めることができるようにする必要があると考える。



【図4】職種に関する就労のための条件の理解

#### イ 進路希望について

【図5】では、「身近な地域の職種から」の回答が最も多かった。このことから、生徒は自己の進路について身近な地域の職種を基にした希望をもっていると考えられる。あわせて、【図6】では、「就職情報誌の利用」と「職業安定所の利用」を選択した生徒が最も多かった。一方、「教師に聞く」を選択した生徒が3名、「家族に聞く」を選択した生徒が6名であった。このことから、生徒が自己の進路について相談する機会が少なく、進路相談が主に教師と保護者間で行われてきたと考えられる。そこで、自己の進路希望について幅広い観点からの情報収集の必要性があると考えられる。

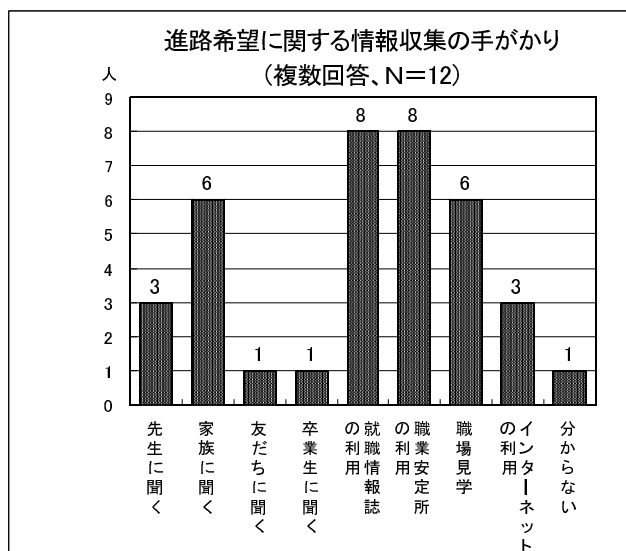


【図5】進路希望の手がかり

同時に、「職場見学」を選択した生徒は6名であった。このことから、体験的な学習におけるイメージをもちやすい情報の提供の効果はあったと考えられる。そこで、画像が取り入れられた進路情報の検索を行うことができるようにする必要があると考える。

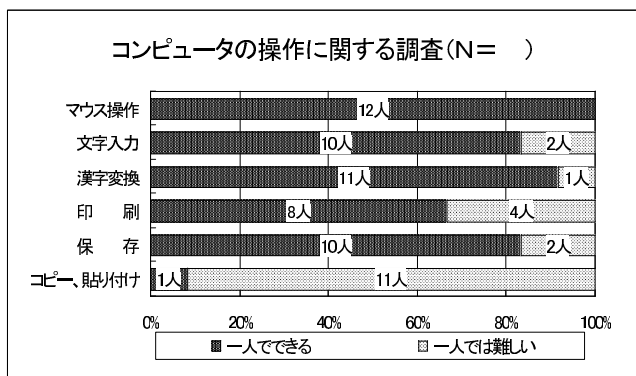
#### ウ コンピュータとインターネットの利用について

次頁【図7】と【図8】の結果から、コンピュータの文書ソフトを活用した文字入力操作は概ね習得していることが分かった。しかし、他の操作は生徒自身が記入した調査の結果と教師の操作状況の把握に違いが見られた。このことから、生徒のコンピュータの利用に対する興味・関心は高まっているが、操作の習得状況は個人差があると考えられる。また次頁【図8】では、「印刷」「保存」「コピー、貼り付け」の操作は、「必要に応じて援助を要する」と「未経験」の生徒が多いこと

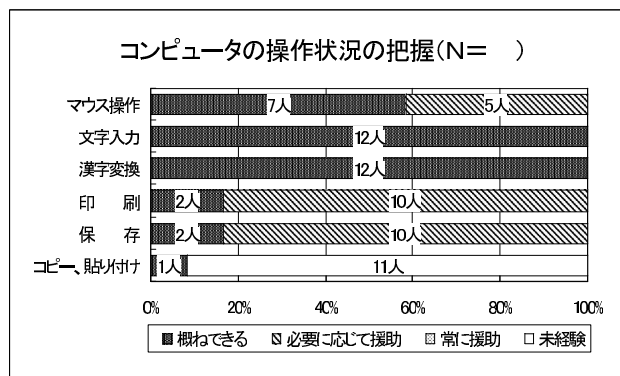


【図6】進路希望に関する情報収集の手がかり

が分かった。このことから、生徒はこれらの機能を使った情報の整理のための学習が少なかったと考えられる。そこで、コンピュータの文書ソフトを活用して様々な機能を使って進路情報を分かりやすくまとめることができるようにする必要があると考える。

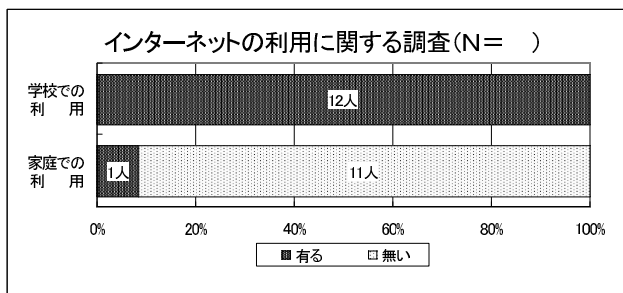


【図7】コンピュータの操作に関する調査

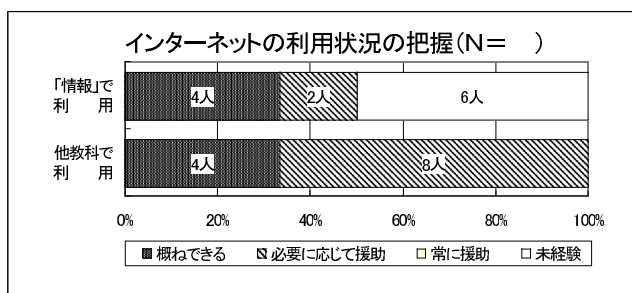


【図8】コンピュータの操作状況の把握

【図9】では対象生徒全員が、学校においてインターネットを利用したことがあると回答した。しかし、【図10】では、実際の生徒の利用状況には個人差があることが分かった。このことから、学習において活用される機会は増えたが、個別に利用できる機会が十分に提供されていないために生徒が操作を習得することが難しいと考えられる。そこで、インターネットの操作方法や手順を分かりやすく提示することにより、目的に従って正しく操作を行い、情報を検索することができるようにする必要があると考える。



【図9】インターネットの利用に関する調査



【図10】インターネットの利用状況の把握

### (3) 実態調査のまとめ

調査結果から明らかになったことを基に、次のような学習を行う必要があると考える。

#### ア 進路情報の収集

- ・これまでの進路学習では進路情報に関する内容が少なく、生徒は希望を基に進路情報入手することができなかつたと考えられる。そこで、生徒が進路情報の収集をとおして様々な職種があることに気づき、幅広く情報を検索することができるようにする。
- ・これまでの進路学習では主に勤務態度に関する内容であったために、生徒は職種に関する理解を深めることができなかつたと考えられる。そこで、生徒が様々な職種の仕事内容や就労のための条件等を調べ、職種に関する理解を深めることができるようにする。

#### イ 進路情報の選択・整理

- ・生徒は、自己の進路について学んだり考えたりする機会が少なかったために、進路希望を具体的にもつことができなかつたと考えられる。そこで、生徒が進路希望の手がかりを確認した上で進路情報の選択を行い、進路希望をより明確なものにすることができるようにする。
- ・生徒は、自己の進路について学んだり考えたりする機会が少なかったために、進路希望の実現に向けた取組について考えることが難しいと考えられる。そこで、生徒が学んだり考えたりしたことを記録して事後に振り返ることができるようにし、進路希望の実現に向けた取組について考えることができるようにする。



### 3 基本構想に基づく手だての試案の作成と教材の開発

#### (1) 手だての試案

基本構想及び実態調査の結果から明らかになった点を踏まえ、情報機器や補助教材を活用した進路情報の収集と選択・整理に関する内容を取り入れた手だての試案を【表4】のように作成した。

【表4】情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習の手だての試案

段階	学習活動と内容	手だての活用	指導上の留意点
進路情報の収集	1 進路情報を集める ・進路情報の収集方法を知る ・進路情報を集める	【インターネットの活用】 インターネットによる進路情報の収集方法を提示し、幅広い進路情報の検索を支援する	操作の手順と複数の検索方法を提示し、幅広く情報を検索できるようにする
	2 進路情報を調べる ・職種の名称、仕事内容、就労のための条件等を調べる	【文書ソフトの活用】 記録紙を提示し、進路情報の内容を理解することを支援する	検索した情報の内容を分かりやすく整理することができるようにする
進路情報の選択・整理	3 進路希望を考える ・進路希望の手がかりを確認して進路情報を選択する	【補助教材(記録紙)の活用】 記録紙を提示し、進路希望を明確にすることを支援する	自分の考えを明確に表すことができるようにする
	4 進路学習をまとめる ・進路希望の実現に向けた取組について考える	【補助教材(ファイル)の活用】 記録紙を振り返り、実現に向けた取組について考えることを支援する	進路に対する自己の意識の変容を確認することができるようにする

#### (2) 情報機器の内容と活用のねらい

- ・「進路情報を集める」活動では、インターネットを活用して進路情報に関するWebページを開き、生徒の希望を基に進路情報を集めることができるようにする。
  - ・「進路情報を調べる」活動では、文書ソフト「一太郎」を活用して、集めた進路情報の内容を記録紙①「しらべカード」に簡潔にまとめ、職種に関する理解を深めることができるようにする。
- 以上の情報機器の内容と活用のねらいを【表5】に示す。

【表5】情報機器の内容と活用のねらい

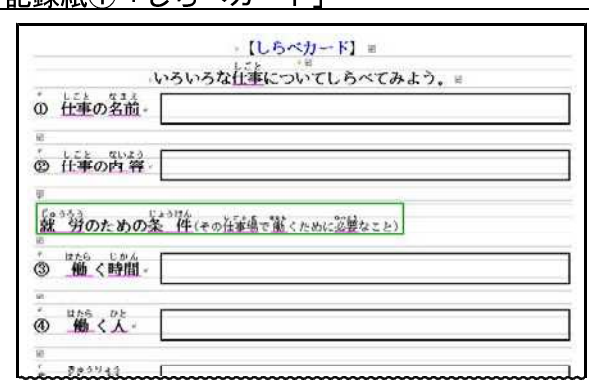
手だて	手だての内容	活用のねらい
【インターネット】 「トップページ job job world」 <a href="http://www.shigotokan.ehdo.go.jp">http://www.shigotokan.ehdo.go.jp</a>	簡単な操作手順に従い、画像を取り入れた情報を基に様々な職種について検索する	・幅広く情報を検索することを促す ・生徒の希望を基にした進路情報の収集を促す
【インターネット】 「しごと情報ネットトップページ」 <a href="http://www.job-net.jp">http://www.job-net.jp</a>	現在の求人情報を基に職種の具体的な内容について検索する	・身近な地域の職種と関連つけた検索を促す ・就労のための条件を理解することを促す
【コンピュータ】 文書ソフト「一太郎」	進路情報の内容について調べ、記録紙①「しらべカード」に入力し、印刷・保存する	・学習への動機付けを図る ・進路情報の内容を簡潔にまとめることを促す

#### (3) 補助教材の内容と活用のねらい

- ・「進路希望を考える」活動では、はじめに記録紙②「進路希望カード」を活用して、自己の長所や適性を基に進路希望の手がかりを確認することができるようにする。次に、記録紙③「進路選択カード」を活用して、進路希望の手がかりに沿って進路情報を選択し、選択した理由を明らかにすることができるようにする。
- ・「進路学習をまとめる」活動では、記録紙④「進路希望実現計画」を活用して、進路希望の実現に向けた取組について考え、進路決定までの見通しをもつことができるようにする。
- ・ファイルは、各学習活動において集めた進路情報や記録紙を綴じ、随時振り返って確認することにより、職種に関する理解を深め、自己の希望をより明確なものにすることができるようにする。

作成した補助教材の内容と活用のねらいを、【図11】に示す。なお、作成した補助教材は、補助資料【資料1～4】として巻末に示した。

### 記録紙①「しらべカード」



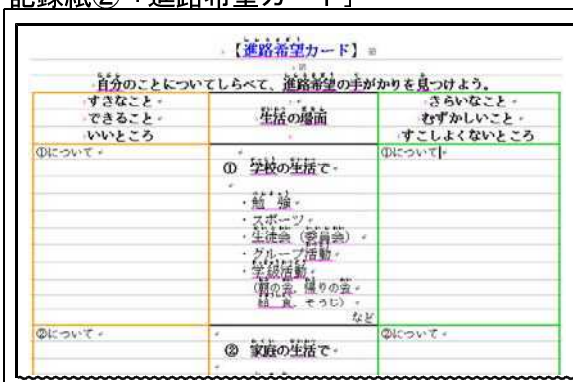
**【入力する内容】**

- ・仕事の名前
- ・仕事の内容
- ・就労のための条件  
(働く時間、就業年齢、給料、休日、必要な資格、働く態度、他に必要なこと、画像)

**【活用のねらい】**

- ・進路情報の内容について項目毎に入力して職種に関する理解を促す
- ・進路希望の手がかりに沿って進路情報を選択するとき振り返って考えることを促す

### 記録紙②「進路希望カード」



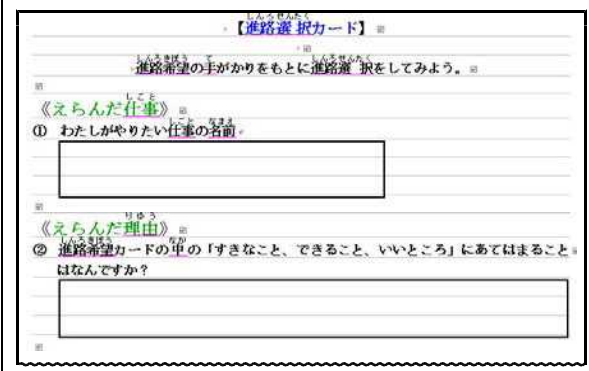
**【記述する内容】**

- ・生活場面毎の長所や適性  
(学校、家庭、寄宿舎、地域、自分の性格)
- ・長所や適性を基に確認した進路希望の手がかり

**【活用のねらい】**

- ・自己の長所を生かした職種を考えて進路情報の選択を行うことを促す
- ・進路希望の実現に向けた取組を考えるときに振り返って考えることを促す

### 記録紙③「進路選択カード」



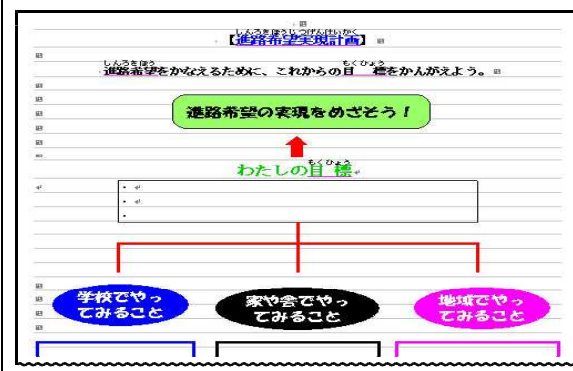
**【記述する内容】**

- ・選んだ仕事の名前
- ・選んだ理由 (手がかりと合うこと、選んだ仕事の好きなど、できそうなこと、将来の生活)

**【活用のねらい】**

- ・進路希望の手がかりに沿って進路情報を選択することを促す
- ・記録紙①と②を振り返り進路希望を明確にすることを促す

### 記録紙④「進路希望実現計画」



**【記述する内容】**

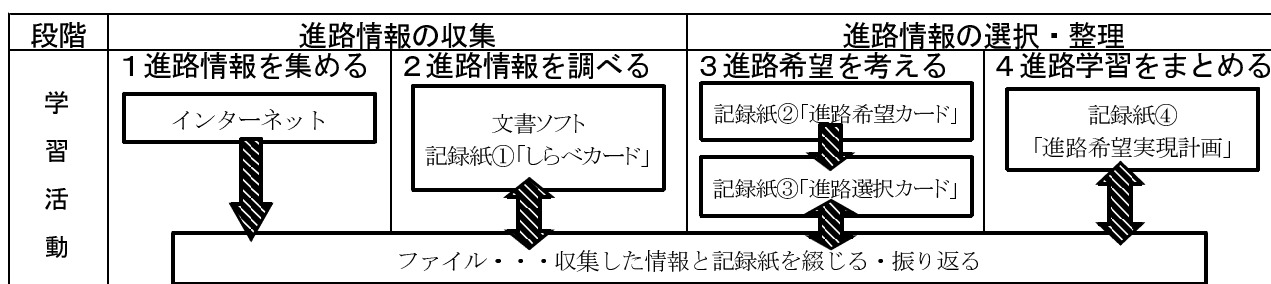
- ・実現に向けた私の目標
- ・学校でやってみる
- ・家庭・寄宿舎でやってみる
- ・地域でやってみる

**【活用のねらい】**

- ・明確になった進路希望を実現するための具体的な取組について考えることを促す
- ・記録紙②と③を振り返って考えることを促す

【図11】 補助教材の内容と活用のねらい

以上の手だてとして活用する情報機器や補助教材の概要を【図12】に示す。



【図12】 情報機器や補助教材の概要

#### (4) 検証計画

知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の手だての試案の有効性について、【表6】の検証計画に基づいて検証する。

検証に当たっては、チェックリストによる事前・事後調査と教師の観察による対象生徒の具体的な活動の様子及び対象生徒による情報機器を活用した進路学習の感想を基に、「情報を活用する能力の育成状況」と「進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況」について総合的に分析・考察を行う。なお、チェックリストの項目は【表7】のとおりである。加えて、「情報機器を活用した進路学習の感想」についての評価の観点は【表8】のとおりである。

【表6】検証計画の概要

検証項目	検証方法	処理・解釈の方法
情報を活用する能力の育成状況	○観察法 ・職種の理解に関するチェックリストによる評価 ・学習活動過程における生徒の言動の観察 ・記録紙とアンケートの分析	・評価の観点に応じて事前・事後調査を行い分析する ・ビデオと教師の記録から分析する ・生徒の記述から分析する
進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況	○観察法 ・自己の願いや希望に関するチェックリストによる評価 ・学習活動における生徒の言動の観察 ・記録紙とアンケートの分析	・評価の観点に応じて事前・事後調査を行い分析する ・ビデオと教師の記録から分析する ・生徒の記述から分析する
情報機器を活用した進路学習の感想	○観察法 ・事後実施するアンケートからの分析	・評価の観点に応じて生徒の記述を分析する

【表7】チェックリストの項目

検証項目	チェック項目	評価の方法
力の育成状況 情報を活用する能力	進路情報の収集方法の理解	各チェック項目について、次の4つの段階に応じて評価する  《評価の段階》
	インターネットによる進路情報の収集	
	職種の名称の理解	
	仕事内容の理解	
	就労のための条件の理解	
進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況	進路希望の手がかりの確認	・A(自らできる)
	手がかりに沿った進路情報の選択	・B(自らしようとする)
	進路希望の実現に向けた取組	・C(促されてする)
	将来の生活の想定	・D(できない)
	自己の希望を基にした進路選択	

【表8】情報機器を活用した進路学習の感想に関する評価の観点

評価の観点	観点の内容	評価の方法
技能の習得	情報機器の活用技能の習得	4項目の質問について3段階で評価する
意欲の表れ	情報機器利用の意欲	1項目の質問と自由記述から評価する
意識の変容	情報機器を活用した進路学習の感想	自由記述から評価する

#### 4 授業実践及び実践結果の分析と考察

##### (1) 情報機器や補助教材を活用した自ら考える進路学習の授業実践の概要

###### ア 対象

岩手県立前沢養護学校高等部第2学年 Aグループ (男子7名 女子5名 計12名)

###### イ 授業実践の期間

平成16年10月4日～7日

###### ウ 単元の指導計画

単元名「調べてみよう 考えてみよう 私たちの進路」(全12時間)

##### (2) 手だての試案に基づく授業実践

手だての試案に基づいて学習指導案を作成し、授業実践を行った。次頁以降の【図13】と【図14】は、授業実践における対象生徒の具体的な活動の様子である。なお、対象生徒12名のうち2名は欠席により除くこととする。

段階	学習活動	授業実践の概要		【手だての活用】	A
		【学習内容】	【教師の支援】		
進路情報の収集	第1次① 進路情報を集める	<b>1 インターネットによる進路情報の収集方法を知る</b> 	操作を図示した手順表を提示し、二人一組に編成して操作を確認し合うようにする	<b>【インターネット】</b> Webページ「job world」からの検索 ↓ <b>【インターネット】</b> Webページ「ごご情報ネット」からの検索 ↓ <b>【ファイル】</b> 集めた進路情報の整理	行動：様々な職種の名称を確認し、すすんで検索を行った  発言：野菜や食べ物を売る仕事と福祉の仕事を探したいです  態度：探そうとする職種のイメージを積極的にTに話そうとした
		<b>2 インターネットを使って進路情報を集める</b> 	知っている職種や現場実習での経験を基に興味・関心のある職種を検索するよう促す	<b>【ファイル】</b> 進路情報の振り返り ↓ <b>【1シートカード】</b> 職種の名称、仕事内容、就労のための条件等の入力 ↓ <b>【ファイル】</b> 「1シートカード」の整理	態度：複数の進路情報を比較検討して違いがあることに気付いた  発言：お年寄りを介護するためには体力が必要  記述：（介護の仕事に就くために）体力をつけていく
進路情報の選択・整理	第2次① 進路希望を考える	<b>1 進路希望の手がかりを確認する</b> 	得意なことやできるようになったことについて具体的に記述できるような問いかけを行う	<b>【2進路希望カード】</b> 自分の長所・適性に関する記述 ↓ <b>【ファイル】</b> 「1シートカード」の振り返り ↓ <b>【3進路選択カード】</b> 選択した進路情報とその理由の記述 ↓ <b>【ファイル】</b> 記録紙の整理	態度：現場実習でほめられたことを思い出し、自分の良いところに気付いた  行動：「お世話をすること」という手がかりから老人福祉施設の情報を選んだ  記述：自分に合っているかが分かってきました
		<b>2 進路希望の手がかりに沿って進路情報を選択する</b> 	確認した進路希望の手がかりが仕事のどの場面において生かすことができるかに気付くような問いかけを行う	<b>【ファイル】</b> 記録紙の振り返り ↓ <b>【4進路希望実現計画】</b> 実現に向けた取組の記述 ↓ <b>【ファイル】</b> 「進路希望実現計画」の整理	行動：積極的に取り組もうとする記述が目立つようになった  発言：何でもすすんでやるようにしていこうと思います 表情：目標が決まり、満足そうな様子  記述：自分の進路がだんだんまとまっていきました
生徒の実態	<b>【進路希望に関する実態】</b> (A) 職種の仕事内容をあまり理解していないため、希望に沿った進路選択が難しい (B) 様々な職種に興味・関心を持ち、自分の長所や適性を基に進路を選択しようとしている (C) 職種の名称や仕事内容をあまり理解していないため、漠然とした進路希望である (D) 知っている職種の数は少ないが、自分なりの希望を基に進路選択を行おうとしている (E) 興味のある職種はあるが仕事内容を理解していないため、漠然とした進路希望である				<b>活動の分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する職種を調べるにより就労に必要なことを自ら考えることができた</li> <li>自己の長所を知ることにより自分に合った職種を選択しようとすることができた</li> </ul>

B	C	D	E
<p>態度：様々な職種を面白そうに見ていた 発言：いろいろ調べてみたくなった</p> <p>発言：ヘルパーの仕事はどんな仕事をするのか調べたい</p> <p>記述：いろんな仕事があり、実習してみたいと思いました</p>	<p>発言：フリーライターになって旅のレポートを書きたいです</p> <p>行動：ほかにも興味のある職種をたくさん検索しようとした</p> <p>記述：いろんな仕事があり、どんな仕事内容かが分かってとても良かった</p>	<p>発言：公務員関係を調べたいんです</p> <p>態度：イメージに合った情報を得ようと、熱心に検索した</p> <p>記述：学校の教師の仕事にとっても関心があるので、たくさん調べてみたいです</p>	<p>発言：機械関係の仕事の中で、製品の製造について知りたいです</p> <p>発言：一番興味があるのはコンピュータ関係の仕事です</p> <p>記述：いろいろな仕事の中から、やりたい仕事を見つけることができた</p>
<p>発言：仕事でパソコンを使うようです「奇声」を出す人には優しく話しかけたいと思います</p> <p>態度：資格に関する仲間の意見を興味深く聞く</p> <p>記述：勉強して(ヘルパーの)資格を取りたい</p>	<p>行動：給料と休日に関心を示し、複数の情報から調べた</p> <p>発言：仕事の出来によって給料が少なかったり、忙しいときは徹夜したりするそうです</p> <p>記述：少し進路希望を考え直したい</p>	<p>発言：教員になってから、社会科を担当したいです</p> <p>態度：教員免許取得までの過程を調べるうちに教員になることが難しいと感じ諦め気味の様子</p> <p>記述：どういうふうにして教員になれるのかが分かったし、やはり資格が必要だった</p>	<p>態度：機械組立の仕事には、いろいろな種類があることに気付いた</p> <p>発言：就労のための条件を満たせば、その仕事に就けるかも知れません</p> <p>記述：いろいろな情報が分かった</p>
<p>発言：私の良いところってあるかなあ</p> <p>発言：すぐすねるときがあるのですが、職場の人と仲良くできるようにしたいです</p> <p>記述：ぜひ資格を取りたい</p>	<p>態度：自分の長所を考えるうちに、新たな職種に関心を示すようになった</p> <p>発言：将来はお金と自分の時間が欲しいので、フリーライターは難しいと考えました</p> <p>記述：自分で(やりたい仕事を)選ぶことができて良かった</p>	<p>発言：本当はお花に興味があり、お花を育てることをしてみたいです</p> <p>態度：新たに希望する職種について、自分もつイメージを積極的に言い表そうとした</p> <p>記述：途中で進路希望が変わったけど、自分に正直になれて良かったです</p>	<p>行動：主に態度に関することを長所として記述した</p> <p>発言：どの仕事がいいかまだ分からないけど、自分が作った物を販売してみたいです</p> <p>記述：ますますやりたくなってきました</p>
<p>行動：資格を取ることに関心をもち、すすんで考えた</p> <p>発言：福祉の仕事でもパソコンを使うことがあるので、ワープロ検定を受けたいと思います</p> <p>記述：自分の進路が分かると楽しいし、頑張ろうと思うようになる</p>	<p>発言：パソコンの仕事では入力を間違っらいけないので、仕事を丁寧にできるようにする</p> <p>発言：途中で考えが変わったので、OA関係の進路情報を調べたいです</p> <p>記述：進路のことを調べたり考えたりすることは大事だと思う</p>	<p>行動：花屋の仕事についてTに質問し、自分にできることを目標として考えた</p> <p>発言：園芸について、学校や家で実際に経験してみたいです</p> <p>記述：希望が変わったけど、将来に向けて進んだと思う</p>	<p>行動：希望する職種に就くためには自分の苦手なことを克服する必要があると考え、目標を立てた</p> <p>発言：(製造の仕事は)面白そうなので、機会があったらやってみたいです</p> <p>記述：勉強するうちに自分の進路が分かってきました</p>
<p><b>活動の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する職種を調べることにより就労に必要なことを自ら考えることができた</li> <li>実現に向けた取組について考えることにより新たな課題を見つけることができた</li> </ul>	<p><b>活動の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する職種を調べることにより職種の具体的なイメージをもつことができた</li> <li>進路情報の選択を行うことにより自ら進路希望を明確に表すことができた</li> </ul>	<p><b>活動の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職種の具体的なイメージをもつことにより自ら希望を見直すことができた</li> <li>進路希望の手がかりを確認することにより希望を明確に表すことができた</li> </ul>	<p><b>活動の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する職種を調べることにより職種のイメージをもつことができるようになった</li> <li>進路情報の選択を行うことにより希望を明確に表すことができるようになった</li> </ul>



段階	学習活動	授業実践の概要		F	
		【学習内容】	【教師の支援】		【手だての活用】
進路情報の収集	第1次①進路情報を集める	<b>1 インターネットによる進路情報の収集方法を知る</b> 	操作を図示した手順表を提示し、二人一組に編成して操作を確認し合うようにする	<b>【インターネット】</b> Webページ「job world」からの検索 ↓ <b>【インターネット】</b> Webページ「ごご情報ネット」からの検索 ↓ <b>【ファイル】</b> 集めた進路情報の整理	行動：様々な種類の職種があることに気づき、幅広く検索した  発言：段ボールを作る仕事や皿洗いの仕事も探したいです  記述：（土木業のような）服が汚れるような仕事も調べてみたい
		<b>2 インターネットを使って進路情報を集める</b> 	知っている職種や現場実習での経験を基に興味・関心のある職種を検索するよう促す	<b>【ファイル】</b> 進路情報の振り返り ↓ <b>【1しらべカード】</b> 職種の名称、仕事内容、就労のための条件等の入力 ↓ <b>【ファイル】</b> 「しらべカード」の整理	発言：仕事によっては深夜勤務があることを知り驚きました  態度：仲間の発表から仕事によって就労のための条件が異なることを知り驚いていた  記述：調べた情報を将来の進路に役立てたい
進路情報の選択・整理	第2次①進路希望を考える	<b>1 進路希望の手がかりを確認する</b> 	得意なことやできるようになったことについて具体的に記述できるような問いかけを行う	<b>【2進路希望カード】</b> 自分の長所・適性に関する記述 ↓ <b>【ファイル】</b> 「しらべカード」の振り返り ↓ <b>【3進路選択カード】</b> 選択した進路情報とその理由の記述 ↓ <b>【ファイル】</b> 記録紙の整理	発言：作業学習では集中してできるけど、得意なことは何か分かりません  発言：決められた仕事をするほうが好きです 発言：休日と給料がいいなと思いました  記述：僕に合う仕事がたくさんありました
		<b>2 進路希望の手がかりに沿って進路情報を選択する</b> 	確認した進路希望の手がかりが仕事のどの場面において生かすことができるかに気付くような問いかけを行う	<b>【ファイル】</b> 記録紙の振り返り ↓ <b>【4進路希望実現計画】</b> 実現に向けた取組の記述 ↓ <b>【ファイル】</b> 「進路希望実現計画」の整理	行動：現場実習の経験から取組を考えた  発言：働くときは話す人の顔を見て話を聞くことが大事です 発言：現場実習で注意されたことを守ろうと思います  記述：こんなに仕事があっただけ驚きました
生徒の実態	<b>【進路希望に関する実態】</b> (F) 家族が働く職種以外に関心があまりないため、進路希望をもつことが難しい (G) 家族が働く職種以外はほとんど理解していないため、進路希望をもつことが難しい (H) 家族が働く職種以外はあまり理解していないため、漠然とした進路希望である (I) 現場実習で体験した職種以外はほとんど理解していないため、進路希望をもつことが難しい (J) 現場実習で体験した職種以外はほとんど理解していないため、進路希望をもつことが難しい			<b>活動の分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職種を検索することにより希望以外の職種にも関心をもつことができた</li> <li>進路希望の手がかりを確認することが難しく希望を明確に表すことができなかった</li> </ul>	

【図14】授業実践の概要と対象生徒の具体的な活動の様子② -12-

G	H	I	J
<p>行動：仲間の検索した情報を面白そうにのぞき込む</p> <p>発言：小さい子が好きだから、保育園の先生の仕事を選びました</p> <p>記述：インターネットで保育士を調べてやってみたいと思いました</p>	<p>行動：どんな職種があるか楽しそうに検索した</p> <p>行動：職種に関する具体的な発言が表れるようになった</p> <p>記述：多く集めることができたし、いろいろな人が働いていることが分かった</p>	<p>態度：仲間の活動を見て何を検索するか考えた</p> <p>発言：中華料理の仕事やお菓子屋さんも好きです</p> <p>記述：いっぱい仕事があったし、やりたい仕事がいっぱいありました</p>	<p>行動：Tの問いかけにより現場実習の経験を思い出し検索する職種を考えた</p> <p>態度：自分で検索できて嬉しそうな様子 発言：花屋さんの仕事も見たい</p> <p>記述：集めた進路情報は来年の実習に役立ちそうです</p>
<p>発言：保育園の先生は子どものお世話をします</p> <p>態度：資格を取るための勉強が必要であることを知り困った様子</p> <p>記述：働く態度のことが分からなかった</p>	<p>発言：深夜勤務があるなんて知らなかったです 態度：自分の考えと違い苦笑いを浮かべた</p> <p>態度：仲間の意見から自分もつイメージとの違いに驚いた</p> <p>記述：残業とか仕事内容が分かった</p>	<p>行動：仕事内容についての具体的な問いかけに答えることができなかった</p> <p>態度：Tの問いかけにより職種のイメージを少しもつことができ、体験したいと興味を示した</p> <p>記述：お菓子の生地の作り方を勉強してみようと思います</p>	<p>行動：分からないことをすすんで教師に確認するようになった</p> <p>態度：希望する職種について勉強する必要があるという仲間の発言を真剣な表情で聞く</p> <p>記述：焼き菓子製造の仕事を知ることができて良かったです</p>
<p>発言：お手伝いや買い物はやったことがないので、できるかどうか分かりません</p> <p>発言：保育園の先生になってやりたいこと何かなあ</p> <p>記述：(進路情報を)自分で選ぶのが難しかったです</p>	<p>発言：家の手伝いはあまりやりません</p> <p>態度：自分もつイメージと異なるため、希望を変更しようと考えた</p> <p>記述：いろいろ調べてみて自分の意見がはっきりでて良かったです</p>	<p>態度：得意なことを考えるが思い浮かばず黙り込む</p> <p>発言：料理が好きなので、中華料理店でチャーハンを作りたい 態度：得意なことを見つけ嬉しそうな様子</p> <p>記述：自分で進路を決めてみようと思いました</p>	<p>発言：自分の良いところが思い出せないな</p> <p>発言：今までやったことがないので、お菓子作りをしてみたいです</p> <p>記述：進路を選ぶとき少し迷いました</p>
<p>表情：思うように考えが浮かばず涙ぐむ</p> <p>行動：Tの励ましにより一つ記述できたら安心し、すすんで他の取組も考えようとした</p> <p>記述：進路について考えるのは大変だった</p>	<p>発言：進路の目標を考えるのが難しいです</p> <p>態度：新たに希望した職種の情報収集の仕方を提案したところ意欲的な態度を示した</p> <p>記述：自分の進路のことが分かってきたこんなに仕事があったて驚きました</p>	<p>態度：考えが思い浮かばず困っている様子</p> <p>発言：漢字検定を頑張りたいです 行動：料理に関する目標を立てるよう促したが思い浮かばなかった</p> <p>記述：自分の進路を決めるのは難しかった</p>	<p>発言：漢字を勉強して進路情報を読めるようになりたい 買物ができるようになりたい 一人でできることを増やしたい</p> <p>記述：少し迷ったけれど、いろんなことを調べることができて良かったです</p>
<p>活動の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する職種を調べることににより自分のイメージと合っているか考えることができた</li> <li>進路希望の手がかりを確認することが難しく希望を明確に表すことができなかった</li> </ul>	<p>活動の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広く進路情報を検索することにより様々な職種があることに気付くことができた</li> <li>進路希望の手がかりに沿った進路情報の選択が難しく希望を明確に表すことができなかった</li> </ul>	<p>活動の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師の問いかけにより職種の具体的なイメージを少しもつことができた</li> <li>進路希望の手がかりを確認することが難しく希望を明確に表すことができなかった</li> </ul>	<p>活動の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報を調べることににより就労に向けて取り組む課題があることに気付いた</li> <li>進路希望の手がかりを確認することが難しく希望を明確に表すことができなかった</li> </ul>

### (3) 実践結果の分析と考察

検証計画に基づき、対象生徒の学習過程における情報を活用する能力の育成状況、進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況について、事前・事後調査（チェックリスト）、対象生徒の具体的活動の様子（学習過程における生徒の言動、生徒の記録紙とアンケートの記述、教師の記録）及び情報機器を活用した進路学習の感想を基に、総合的に分析と考察を行った。

#### ア 事前・事後調査の結果の分析と考察

##### (ア) 進路情報の収集における情報を活用する能力の育成状況

事前・事後調査の結果について【表9】のとおりにまとめ、次のとおり分析を行った。

・「進路情報の収集方法の理解」は、進路情報の収集をとおして「仕事の内容がたくさんあって驚いた」「就職のことが分かった」などと感想を述べる生徒が多かったが、様々な収集方法を理解することはできなかった。このことは、進路情報の収集を初めて行ったことにより、様々な進路情報の内容に興味・関心をもつことができたものの、様々な収集方法の活用について発展的に考えるまでには至らなかったためであると考える。

【表9】情報を活用する能力の育成状況に関する事前・事後調査の結果

チェック項目	評価 (単位=人)				
	前後	A	B	C	D
進路情報の収集方法の理解	事前		3	6	1
	事後		4	6	
インターネットによる進路情報の収集	事前				10
	事後	4	5	1	
職種の名称の理解	事前			8	2
	事後	1	5	4	
仕事内容の理解	事前		2	8	
	事後	2	4	4	
就労のための条件の理解	事前		2	4	4
	事後	2	4	4	

- ・「インターネットによる進路情報の収集」は、授業実践をとおして収集方法を知ることにより、ほぼ全員が「自らできる」または「自らやろうとする」ようになった。このことは、「このイラストはどんな仕事だろう」「私の探している職種はこの画像とは違います」などと画像が取り入れられた進路情報に興味をもつことができ、自己の希望を基にした進路情報の収集を行おうとする意欲をもつことができるようになったためであると考え。
- ・「職種の名称の理解」は、進路情報の収集をとおして確認した職種の名称が一人あたり3件に満たなかったものの、生徒の感想から、「多く集めることができた」「色々な種類の進路情報を集めることができた」などと満足した様子が見られた。このことは、インターネットの活用により様々な職種があることに気付き、自己の希望を基にした進路情報の収集を行うことができるようになったためであると考え。
- ・「仕事の内容の理解」では、一つの職種について複数の仕事内容を記録紙に入力することができるようになった。このことは、進路情報を調べることにより職種のイメージを具体的にもつことができるようになったためであると考え。しかし、「介護って何ですか」「製造って何ですか」などと教師に質問する生徒が多く、職種に関する用語や進路情報の内容を理解することができるようになるためには教師の援助が必要であると考え。
- ・「就労のための条件の理解」は、一つの職種について複数の就労のための条件を記録紙に入力することができるようになった。このことは、進路情報を調べることにより就労のための条件があることに気付くことができたためであると考え。しかし、必要な資格の内容や取得に必要な事柄について考えたり勤務時間や休日から将来の生活を想定したりすることは教師の援助を必要とする生徒が多かった。

以上のことから、進路情報の収集をとおして、進路情報に対する興味・関心が高まり、「B（自らやろうとする）」のチェック項目の生徒数が増えてきた。しかし、収集方法の理解や職種に関する理解はなお教師の援助を必要とすることが多く進路選択に必要な情報を探すことが



難しかったため、情報を活用する能力を十分に育成することができなかったと考える。

(イ) 進路情報の選択・整理における進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況

事前・事後調査の結果について【表10】のとおりまとめ、次のとおりに分析を行った。

- 「進路希望の手がかりの確認」は、自己の長所や適性を考えることにより、自分に合った仕事を考えようとする生徒が増えた。しかし、自己の長所について、スポーツ、特定の教科、趣味などをあげたために、自分の興味のあることを手がかりとして記述してしまう生徒が多かった。このことから、生徒たちは自己の長所や適性を理解することが難しかったと考える。

【表10】進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況に関する事前・事後調査の結果

チェック項目	評価 (単位=人)				
	前後	A	B	C	D
進路希望の手がかりの確認	事前		1	9	
	事後	1	4	5	
手がかりに沿った進路情報の選択	事前		7	2	1
	事後	1	7	2	
進路希望の実現に向けた取組	事前		8	2	
	事後	2	5	3	
将来の生活の想定	事前	1	5	4	
	事後	1	6	3	
自己の希望を基にした進路選択	事前		6	4	
	事後	1	7	2	

- 「手がかりに沿った進路情報の選択」は、全員が収集した進路情報の中から選択することができたものの、選択した理由を記述できなかつたり「選ぶのが難しい」「選ぶとき迷った」と感想を述べる生徒が多かった。このことは、自己の希望を基に進路情報を選択する学習経験が乏しいために、進路情報を選択することが難しかったと考える。

このことは、自己の希望を基に進路情報を選択する学習経験が乏しいために、進路情報を選択することが難しかったと考える。

- 「進路希望の実現に向けた取組」は、授業実践をとおして希望する職種に就労するために取り組む課題を考えようとするができるようになったものの、「生徒会を頑張る」「家の手伝いをする」「地域行事に参加する」などを記述し、日常の生活のめあてを考えることにとどまる生徒が多かった。このことから、職種に関する理解と自己の長所や適性の理解が不十分であるために、就労に向けた課題を考えることが難しかったと考える。
- 「将来の生活の想定」は、授業実践をとおして「運転免許の取得」「バスや電車での通勤」「自宅通勤」などの記述が多かったものの、職業生活と関連付けた具体的な記述はほとんどなかった。このことから、進路情報の選択・整理だけでは将来の生活を想定することは難しかったと考える。
- 「自己の希望を基にした進路選択」は、「学習するうちに自分の進路が分かってきた」「自分の進路を考えることが大事だと思った」などと満足することができたものの、「自分で進路を考えることが難しかった」と感想を述べる生徒が多かった。このことから、自ら進路を考えることの必要性に気付くことができるようになったものの、進路希望を明確にすることは十分にできなかったと考える。

以上のことから、進路情報の選択・整理をとおして自己の希望を叶えようとする意欲は高まってきたものの、希望をより明確にして考えることが難しいため、進路の選択・決定に参加しようとする態度を十分に育成することができなかったと考える。

イ 対象生徒の具体的活動の様子からの分析と考察

(ア) 進路情報の収集における情報を活用する能力の育成状況

インターネットを活用した「進路情報を集める」学習活動では、はじめに、コンピュータの画面に ページを提示したところ、イラストや写真の画像を興味深く見たり進路情報の多さに驚いたりしていた。そこで、「グループの仲間同士で手順表を見ながら検索してみましょう」と手順の確認を促すと、生徒たちは手順表を基に「 ページの開き方はどうするのだろう」「次はどこをクリックするの」などと積極的に声を掛け合い、やり方を確認した。やり方を理解できると、「いろいろ調べたくなってきた」「もっと検索してもいいですか」などと発言するようになり、

意欲的に取り組もうとする態度が表れるようになった。こうして、画像の面白さと情報量の多さを実感することにより、学習への意欲を高めることができ、自らインターネットによる進路情報の収集方法を理解することができるようになった。

次に、「今度は自分の希望する職種の進路情報を探しましょう」と希望を基にした進路情報の検索を促したところ、どの生徒も事前調査では知っている職種や希望する職種の数が少なかったのに対し、「ヘルパーの仕事」「保育士」「ハンバーガー屋」「花屋」など次々に職種の名称を言い表すようになった。この様子を見た他の教師から、「これほど多くの職種の名称を言い表すとは、思ってもいなかった」と驚きの声があがった。

さらに、「進路情報の内容を読んで、自分のイメージと合っているかどうか確かめてみましょう」と情報の内容理解を促した。進路情報の内容は、ふりがなのない文章がほとんどであったが、生徒たちは分からないところをすすんで教師に質問したり仲間と話し合ったりして解決を図ろうとした。そして、進路情報の内容を理解することができるようになると、「思ってたとおりが」「体力がいる仕事だとは知らなかった」などと感想を述べ、職種に対するイメージを具体的にもつことができるようになった。あわせて、同じ職種でも仕事内容に違いがあることに気付き、「中華料理の仕事と西洋料理の仕事はどう違うのだろう」「機械の組立作業にもいろいろな種類がありました」などと職種に対する興味・関心を広げることににより、自分の希望する職種の進路情報を収集することができた。

文書ソフトを活用した「進路情報を調べる」学習活動では、コンピュータの画面に記録紙①「しらべカード」を提示し、前時に収集した進路情報を基にカードの項目に従って進路情報をまとめるよう促した。生徒たちはファイルを振り返ることに気付き、前時に綴じた進路情報を基に仕事内容や就労のための条件等を調べ、入力を行うことができた。

入力する記録紙は、生徒の意欲的な活動をねらい、あらかじめ項目毎に罫線枠を設けるとともに、枠の大きさと入力する文字サイズを調整しておいた。加えて、入力を終えるごとに保存と印刷を行い、活動の成果を確認するよう促した。生徒たちは入力を終えると、「余白や空欄はどうすればいいですか」と教師に質問をした。そこで、同じ職種について他の進路情報と比較検討するよう促した。このような発展的な活動に取り組むことにより、「勤務時間が違う」「資格が必要な場合がある」などと新たな就労のための条件に気付き、職種に関する理解を深めることができた。あわせて、「希望を見直そうかな」「ますますこの仕事をやってみたくなくなった」などと発言するようになり、自己の希望について考えようとする様子が見られるようになった。

以上のことから、情報機器の活用により、自己の希望を基にした進路情報の収集と職種に関する理解を深めるための支援が可能となり、情報を活用する能力の育成が図られたと考える。

#### (4) 進路情報の選択・整理おける進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成状況

記録紙とファイルを活用した「進路希望を考える」学習活動では、はじめに記録紙②「進路希望カード」を提示して、自己の長所や適性を理解するよう促した。しかし、生徒たちは、苦手なことやできないことを多く記述するものの、「自分の良いところはあるかな」「僕の得意なことって何だろう」などと考え込む様子が見られた。そこで、「高等部に入学後、できるようになったことやほめられたことがあなたの良いところですよ」と長所や適性があることに気付くよう促したところ、「現場実習でお年寄りのお世話の仕方が上手だとほめられた」「作業学習で製品づくりを覚えた」などを思い出し、記述することができるようになった。さらに、「あなたの良いところを生かした仕事はどのようなものがあるか考えましょう」と進路希望の手がかりの確認を促したところ、生徒は自らファイルを振り返り、「お年寄りをお世話するのが得意だから、老人ホームの仕事だな」「コンピュータの入力が得意だから、OA関連の仕事ができると思う」などと発言し、進路希望の手がかりについて考えることができるようになった。一方、「僕は学校の先生になりたいと思っていたけれど、植物を育てる作業が得意であることに気付いたので、進路希望を変えようと思います」と進路希望の変更をしようとしたり、自分の長所を見つけることが難しいために自分に合った仕事を思い浮

かべることができず悩みを深めたりする生徒も現れた。

次に、記録紙③「進路選択カード」を提示し、確認した進路希望の手がかりを基に収集した進路情報の中から自分に合っていると思う職種を選び、希望をより明確に表すことを促した。進路希望の手がかりを確認することができた生徒は、選択した進路情報について選んだ理由を具体的に記述したり、「進路希望を考え直したい」と新たな進路情報の収集を希望したりすることができた。一方、進路希望の手がかりを確認することが難しい生徒は、希望した職種が自分に合っているかどうか考えようとするものの、明確に理由を表すことが難しかった。そこで、考える視点を就労から学校生活に変え、「今、自分が学びたいことややってみたいと思うことを仕事にたとえて記述しましょう」とできることを増やすための取組について考えるよう促した。すると、「料理を体験したい」「お菓子作りを勉強したい」などと発言し、自ら経験の拡大を図ろうとする意欲をもつことができるようになった。

記録紙とファイルを活用した「進路学習をまとめる」学習活動では、記録紙④「進路希望実現計画」を提示して、「選んだ職種に就くために、自分ができるようになりたいことを考えましょう」と実現に向けた取組を考え進路決定までの見通しをもつよう促した。生徒たちは、自らファイルを振り返り、「希望の実現のためには、自分が積極的にならなければいけない」「今まで関心がなかったことにも取り組まなければいけない」「苦手なことも克服しないといけない」などと新たな課題に気付くことができるようになった。一方、進路希望を変更しようとする生徒は、「新しい進路情報を調べて考えたい」と発言し、自分に合った職種を探し出すことが難しい生徒も、「できることを増やして進路に生かしたい」と発言するようになり、自己の進路について前向きに取り組もうとする態度が表れるようになった。

以上のことから、記録紙とファイルの活用により、進路希望の手がかりに沿った進路情報の選択と実現に向けた取組について考えるための支援が可能となり、進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成を図ることができたと考える。

#### ウ 情報機器を活用した進路学習の感想の分析と考察

授業実践後にアンケート調査を行い、その結果を次頁【表11】のとおりまとめ、評価の観点に基づき次のとおり分析を行った。

##### (ア) 技能の習得に関する分析と考察

- ・インターネットの活用技能の習得については、「よく分かった」「(情報が)たくさん見つかった」との回答がいずれも過半数を超えていたことから、生徒は目的に従って概ね習得することができたと考える。
- ・文書ソフトの習得は、「一人でできた」が過半数に達しなかったことから、更に情報機器の活用技能についての学習経験を積み、習得することができるようにする必要があると考える。

##### (イ) 意欲の表れに関する分析と考察

- ・インターネットを活用した進路学習について、対象生徒全員が「ぜひやってみたい」と回答した。また、収集した進路情報の活用について、現場実習や進路選択のときに役立てたいと考えている生徒が多いことが分かった。このことから、情報機器の活用に対する意欲を高めることができたと考ええる。

##### (ウ) 意識の変容に関する分析と考察

- ・「仕事の内容がいっぱいあった」「就職のことがよく分かった」と進路情報を収集することができたことを表す記述が見られることから、情報機器の活用をとおして、進路情報の収集方法を知り様々な職種を検索することができたと考える。
- ・「いろいろな仕事の情報が載っていた」「いろんなことを調べることができた」と様々な職種があることに気付いたことを表す記述が見られることから、幅広く進路情報を検索し、希望以外の職種にも興味・関心をもつことができたと考ええる。
- ・「まだ分からないことも分かるようになりたい」「進路を自分で決めたい」と自己の進路につい

て前向きに考えようとする記述が見られることから、自ら進路を考えようとする態度が表れるようになってきたと考える。

以上のことから、情報機器を活用した進路学習は、自己の進路に対する興味・関心を高め、職種に関する具体的なイメージをもつことを促し、希望を明確に表そうとする意欲を喚起することができたと考える。

【表11】情報機器を活用した進路学習の感想（事後アンケートから）

項目	質問項目	生徒の記述(回答人数)
技能の習得	ページの開き方は分かりましたか	よく分かった(6人) だいたい分かった(4人) あまり分からなかった(0人)
	調べたい情報は見つかりましたか	たくさん見つかった(8人) だいたい見つかった(2人) あまり見つからなかった(0人)
	調べた情報の保存はできましたか	一人でできた(3人) 教えられてできた(7人) できなかった(0人)
	調べた情報の印刷はできましたか	一人でできた(5人) 教えられてできた(5人) できなかった(0人)
意欲の表れ	今後もインターネットを使って進路情報を収集したいと思いますか	ぜひやってみたい(10人) おすすめされたらやる(0人) 面倒だからやらない(0人)
	収集した進路情報をどのように使おうと思いますか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事を決めるときに使う</li> <li>・卒業した自分に使おうと思う</li> <li>・仕事について考えるときに使いたい</li> <li>・進路の勉強で使いたい</li> <li>・3年生の現場実習に生かす</li> <li>・将来に役立てたい</li> <li>・自分の就職に役立てたい</li> <li>・来年の実習に役立てたい</li> <li>・学校の勉強でたくさん使いたい</li> <li>・進路情報をもう少し使って勉強したい</li> </ul>
意識の変容	インターネットとコンピュータを使った進路学習について、あなたはどんなことを感じましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けっこう面白く、しかも役に立った</li> <li>・こんなに仕事の内容がいっぱいあって驚きました</li> <li>・私は、インターネットで保育士とかを調べて、小さい子の面倒を早く見たいと思いました</li> <li>・自分の進路のことがよく分かったと思います</li> <li>・インターネットで就職のことが分かった</li> <li>・まだ分からないことも分かるようになったらいいなと思いました</li> <li>・いろいろなことを調べることができたのでよかったなと思いました</li> <li>・最初はインターネットで自分のしたいことが見つかるか分からなかったけど、いろいろな仕事の情報が載っているのが分かった</li> <li>・自分の将来のことを考えるのは難しいことだったけど、したい仕事を見つけてやっぱり人の役に立ちたいと思ったし、これからも頑張っていきたいと思った</li> <li>・これからたくさん勉強をしていく上でとても役立つと思います</li> <li>・楽しかったし、また進路の勉強をやってみたいです</li> <li>・僕は、初めて進路の勉強をしましたが、またやりたいです</li> <li>・大変だったところは、調べて書くところです</li> <li>・私は進路を自分で決めて学習していこうと思いました</li> <li>・今まで学んだ進路学習を少しずつ学んでいこうと思います</li> </ul>

## 5 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践から明らかになったことは、次のとおりである。

- ・インターネットを活用して進路情報を収集する活動は、円滑で幅広い情報の検索を可能にし、生徒の興味・関心を基にした進路情報の検索を促す効果があった。
- ・複数の収集方法を提示した進路情報を収集する活動は、情報の比較検討を可能にし、情報の内容を詳しく調べて職種に関する理解を深めることができるようにする効果があった。
- ・文書ソフトを活用した進路情報の内容の整理は、活動に対する動機付けを図ることを可能にし、進路選択に必要な内容について分かりやすくまとめることができるようにする効果があった。
- ・記録紙を活用して進路希望を考える活動は、生徒の長所や適性を明らかにすることを可能にし、進路希望に沿った進路情報の選択を行おうとする態度を促す効果があった。
- ・記録紙を活用して進路希望の実現に向けた取組について考える活動は、進路決定までの見通しをもつことを可能にし、自ら進路に取り組むことの必要性への気付きを促す効果があった。
- ・ファイルを活用した活動は、学習過程の生徒の記憶を維持することを可能にし、生徒が自ら調べたり考えたりしようとする態度を促す効果があった。

以上のことから、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習において、生徒が生活上の課題である進路の実現を目指すために必要な情報を活用する能力と進路の選択・決定に参加しようとする態度の育成を図ることができたと捉え、情報機器の活用と補助教材の作成・活用を取り入れた手だての試案は、有効であると考えられる。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本研究は、知的障害養護学校高等部の生活単元学習において、進路情報の収集と選択・整理の学習活動をとおして、自ら考える進路学習の在り方を明らかにし、知的障害養護学校高等部の進路指導の充実に役立てようとするものである。そのために、情報の検索と処理を円滑に行うことができる情報機器と学習活動の記録と振り返りができる補助教材を活用した手だての試案を作成して授業実践を行い、その授業実践に基づき自ら考える進路学習の在り方についてまとめた。その結果、成果として得られたことは、次のとおりである。

#### (1) 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想の立案

知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方についての基本的な考え方として、生徒が自ら進路の選択・決定に参加していく能力・態度を、「情報を活用する能力」と「進路の選択・決定に参加しようとする態度」の二つの構成要素でまとめた。また、文献を基に生徒の障害の特性を考慮した支援として、情報機器や補助教材を活用することの意義を明らかにし、進路情報の収集と選択・整理の学習活動の展開を構想し、知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する基本構想を立案することができた。

#### (2) 基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析と考察

基本構想に基づいて、情報機器や補助教材の活用を手だてとして取り入れるに当たり、調査対象となる生徒の職種に関する理解、進路希望及び情報機器の利用について実態を把握することができた。また、調査結果から、手だての試案作成及び補助教材の開発にかかわり、進路情報の収集における配慮事項やコンピュータの操作上の留意点を明らかにすることができた。

#### (3) 基本構想に基づく手だての試案作成と教材の開発

基本構想及び実態調査結果から明らかになったことを踏まえて設定した「進路情報の収集」「進路情報の選択・整理」の学習段階のもとに、「進路情報を集める」「進路情報を調べる」「進路

希望を考える」「進路学習をまとめる」という四つの学習活動を想定し、自ら考える進路学習の手だての試案を作成することができた。また、これらの学習活動を展開するための手だてとして、学習活動の記録と振り返りを支援するための補助教材の開発を行うことができた。

#### (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づいて学習指導案を作成し、情報機器や補助教材を活用した授業実践を行い、実践結果から生徒が自ら進路の選択・決定に参加していく能力・態度の構成要素である「情報を活用する能力」「進路の選択・決定に参加しようとする態度」の育成状況について分析と考察を行った。その結果、「進路情報の収集」「進路情報の選択・整理」という学習段階のもと、職種に関する理解を促し、自己の希望をより明確なものにしようとする意欲の喚起を図ることを支援する情報機器や補助教材の活用を取り入れた手だての試案が、「情報を活用する能力」「進路の選択・決定に参加しようとする態度」の育成を図る上で有効であることを確認することができた。

#### (5) 知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方に関する研究のまとめ

知的障害養護学校高等部の生活単元学習における自ら考える進路学習の在り方について、情報機器や補助教材を活用した進路情報の収集と選択・整理の学習活動をとおして、成果と課題を明らかにすることができた。

## 2 今後の課題

本研究をとおして、生徒は自己の進路に興味・関心があり、自分なりの願いや考えをもっていることが明らかになった。このことから、生徒が自己の進路について希望を言い表すための支援を行うことが、自己を理解して自ら進路の選択・決定に参加するために重要であると実感するとともに、今後の課題として、次の点についてさらに授業実践をとおして検討していく必要があると思われる。

- ・ 体験的な学習をはじめ様々な職種に関する理解を深めるための学習活動を行うことにより、進路に対する見通しと意欲をもち、進路選択に生かすことができるようにすること
- ・ 様々な学習活動をとおして経験の拡大を図ることにより、自己の長所や適性を理解して願いや希望を言い表すことができるようにすること

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝申し上げます、結びの言葉といたします。

### 【参考文献】

- 鈴木敏恵著 (2002), 『ポートフォリオで進路革命!』, 学事出版  
鈴木敏恵著 (2003), 『未来教育ポートフォリオ解説書 全3巻』, 教育同人社  
全国特殊学校長会編集 (2002), 『個別移行支援計画』, ジアース教育新社  
全日本特殊教育研究連盟編集(1996), 『新・教師のための福祉・就労ハンドブック』, 日本文化科学社  
高浦勝義著 (2000), 『ポートフォリオ評価法入門』, 明治図書  
東京都知的障害養護学校就業促進研究協議会編集 (2003), 『個別移行支援計画Q & A基礎編』, ジアース教育新社  
藤田誠 (1999), 「社会参加をめざす進路指導」, 『発達の違いと教育』 No.505, 日本文化科学社  
藤田誠 (2000), 「教育課程における進路の学習の位置づけと実際」, 『発達の違いと教育』 No.519, 日本文化科学社  
松矢勝宏 (2003), 「進路支援の在り方を求めて」, 『発達の違いと教育』 No.547, 日本文化科学社  
参考Webページ  
関西文化学術研究都市私のごと館 トップページ  
(財)雇用情報センター しごと情報ネットトップページ

## 【補助資料】

補助資料－1	記録紙①「しらべカード」	資料1
補助資料－2	記録紙②「進路希望カード」	資料2
補助資料－3	記録紙③「進路選択カード」	資料3
補助資料－4	記録紙④「進路希望実現計画」	資料4

## 【しらべカード】

いろいろな仕事しごとについてしらべてみよう。

① 仕事しごとの名前なまえ

② 仕事しごとの内容ないよう

就しゅうろう 労ろうのための条じょう 件けん (その仕事場しごとばで働くはたらために必要ひつようなこと)

③ 働くはたら時間じかん

④ 働くはたら人ひと

⑤ 給きゅうりょう 料りょう

⑥ 休きゅうじつ 日じつ

⑦ 必ひつよう 要しかくな資格しかく

⑧ 働くはたら態度たいど

⑨ ほかひつように必ひつよう 要しかくなこと

【その仕事しごとがわかる画像がぞうをはってみよう】



## 【進路希望カード】

自分のことについてしらべて、進路希望の手がかりを見つけよう。

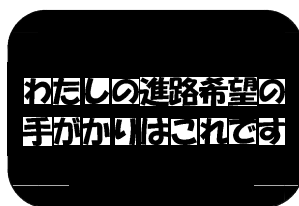
好きなこと できること いいところ	生活の場面	きれいなこと むずかしいこと すこしよくないところ
①について	<b>① 学校の生活で</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強</li> <li>・スポーツ</li> <li>・生徒会（委員会）</li> <li>・グループ活動</li> <li>・学級活動 （朝の会、帰りの会 給食、そうじ）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	①について
②について	<b>② 家庭の生活で</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味</li> <li>・手伝い</li> <li>・身の回りの整理</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	②について
③について	<b>③ 地域の生活で</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス、列車の利用</li> <li>・買い物</li> <li>・出かけるところ</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	③について
④について	<b>④ その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の性格や態度</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	④について



**こんな仕事ならすきになれそう！  
こんな仕事ならできそう！**



**こんな仕事はちょっときらい！  
こんな仕事はむずかしそう！**



しんろせんたく  
【進路選択カード】

しんろきぼう て しんろせんたく  
進路希望の手がかりをもとに進路選択を試みよう。

しごと  
《えらんだ仕事》

- ① わたしがやりたい仕事の名前

りゆう  
《えらんだ理由》

- ② 進路希望カードの中の「好きなこと、できること、いいところ」にあてはまることはありますか？

- ③ その仕事がいいと思うことはありますか？

- ④ その仕事が好きだと思うことはありますか？

- ⑤ その仕事でできそうだと思うことはありますか？

- ⑥ その仕事ではたらいてどんな生活をしたと思いますか？

しんろきぼうじっげんけいかく  
【進路希望実現計画】

しんろきぼう  
進路希望をかなえるために、これからの目 標をかんがえよう。



もくひょう  
わたしの目標

•  
•  
•

学校でやっ  
てみるこ

家や舎でやっ  
てみるこ

地域でやっ  
てみるこ